

エル・システム フェスティバル 参加公演

エディクソン・ルイス & 小菅優 デュオ・リサイタル

ベネズエラの貧困地区から世界のベルリン・フィルへ！エル・システムが生んだ奇跡のスター

2013.10.11 (fri) **公開レッスン** 15:30 開場 / 16:00 開演 **リサイタル** 18:30 開場 / 19:00 開演

公開レッスン：全席自由 500 円 リサイタル：全席指定 4,000 円 Lコード：37462



世界最高のオーケストラ、ベルリン・フィルに史上最年少の 17 歳で、かつ初の南米出身メンバーとして入団を果たしたエディクソン・ルイスは、11 歳のときベネズエラの教育プロジェクト「エル・システム」の音楽教室でコントラバスに出会い、その稀有な才能を見いだされた一人です。貧困地区から世界に羽ばたいた「奇跡のスター」ルイスの実力を、同じく世界で活躍する名ピアニスト・小菅優との共演でお楽しみいただく注目の公演です。

あわせてルイス本人による公開レッスンも実施。小菅優も加わり、斬新なプログラムに意欲的に取り組むことで知られる、慶應義塾大学 OB による社会人オーケストラ「アマデウス・ソサイエティー管弦楽団」に、モーツァルトのピアノ協奏曲「ジュノム」の極意を指導します。「エル・システム」で育ったルイスがその教育法を披露する、貴重な機会をぜひお見逃しなく！

エディクソン・ルイス (コントラバス) 小菅優 (ピアノ)

公開レッスン受講生：アマデウス・ソサイエティー管弦楽団

受講曲：モーツァルト ピアノ協奏曲 第 9 番 変ホ長調 K.271「ジュノム」

カール・ディッター・フォン・ディッター・ドルフ：コントラバス協奏曲 変ホ長調

ルドルフ・ケルターボーン：ソロ・コントラバス曲集(ウィーン式チューニングのコントラバス・ソロのために)【日本初演】

アントン・ツィンマーマン：コントラバス協奏曲 二長調

フレデリック・ショパン：バラード 第 4 番 へ短調(ピアノ・ソロ)

ローランド・モーザー：ローランド・モーザー…柔らかなベース音と共に～フリーデリケ・マイレカーに捧ぐ

(ウィーン式チューニングのコントラバス・ソロのために)

ジョヴァンニ・シュベルガー：コントラバス協奏曲【日本初演】

Hakuju Hall チケットセンター

電話：03-5478-8700 (10:00～18:00 火～土 / 祝日・休館日を除く)

エディクソン・ルイス(コントラバス) Edicson Ruiz, contrabass

1985年カラカス生まれ。11歳からコントラバスを弾き始め、ホセ・アントニオ・アブレウによって創設された、ユース・オーケストラのための国立財団 FESNOVIV が運営する「エル・システム」のオーケストラに所属。最初の恩師としてフェリックス・ブテに学んだ。15歳の時、米インディアナポリスで開催された国際ベース奏者協会コンクールで優勝。その後すぐにジャンヌ・サクサラに師事し、ベルリン・フィル・オーケストラ・アカデミーの最年少スカラシップ生となる。アカデミーではクラウス・シュトールに師事し、この学生時代にベルリン・フィルのオーディションに合格、団員となった。2002年にはベネズエラ政府より、オーデン・ホセ・フェリックス・リバス賞を授与されている。既に世界で最も著名なコントラバス・ソリストの1人であり、五大大陸のすべてにおいて、演奏会を成功させている。ザルツブルク、ルツェルン、エディンバラ、リスボンのグルベンキアン音楽祭などの世界主要音楽祭をはじめ、ニューヨークのリンカーン・センター、ベルリン、東京、マドリッド、オデッサ、チューリヒ、ヨハネスブルクなどで、著名なオーケストラと共演している。彼のために作曲され、自身が初演した作品の作曲家には、ハインツ・ホリガー、ポール・デセン、エフレイン・オッシャー、アルトゥーロ・パンタレオン、マティアス・オッカー、ルイス・アントゥネス・ペナ、藤倉大、ローランド・モーザーらの名が挙げられる。室内楽にも熱心で、アンナー・ビルスマ、ジョルジ・クルターク、ハインツ・ホリガー、エリオット・カーター、ブルジュ、クラウス・トゥーネマン、トーマス・ツェートマイアー、イェルク・ヴィトマンらと共演している。

小菅優(ピアノ) Yu Kosuge, piano



高度なテクニックと美しい音色、若々しい感性と深い楽曲理解で最も注目を浴びている若手ピアニストの一人。2000年にドイツ最大の音楽評論誌「フォノ・フォルム」より、ショパンの練習曲全曲録音に5つ星が与えられた。9歳より演奏活動を開始し、その足跡はヨーロッパ、米国、日本など年に40カ所以上に及び、'05年ニューヨークのカーネギー・ホールで、翌06年には、ザルツブルク音楽祭でそれぞれリサイタル・デビューを行い、大成功を収めた。これまでにドミトリエフ、デュトワ、小澤、大植、リント、オラモ等の指揮でベルリン響、フランクフルト放送響、シュトゥットガルト放送響、ハノーファー北ドイツ放送フィル、サンクトペテルブルク響、フィンランド放送響等と共演。ザルツブルクをはじめラインガウ、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン等の国際音楽祭にも出演し着実に活躍の場を広げている。'10年ザルツブルク音楽祭で、イーヴォ・ボゴレリッチの代役としてフィリップ・ヘレヴェッヘ指揮カメラータ・ザルツブルクと共演し、絶賛を博した。'12年4~5月、紀尾井シンフォニエッタ(指揮:ティエリー・フィッシャー)のアメリカ・ツアーに参加、10~11月にはハンスイェルク・シェレンベルガー指揮カメラータ・ザルツブルクの日本ツアーに参加、モーツァルトのピアノ協奏曲第20番から第27番までの全8曲を共演し、高い評価を得た。'13年2月、服部譲二指揮ウィーン室内管弦楽団とモーツァルトのピアノ協奏曲第9番変ホ長調K.271「ジュノム」を共演、ウィーン・デビューを果たした。また、東京、大阪でベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏会(全8回)を行っている。録音は、最新盤の「ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ集第2巻「愛」」、「モーツァルト:ピアノ協奏曲第20番&第22番」、小澤征爾指揮/水戸室内管との「メンデルスゾーン:ピアノ協奏曲第1番他」を含む12枚のCDをソニーより、また「リヒャルト・シュトラウス&フランツ・シュトラウス・ホルン&ピアノ作品集」(オクタヴィア・レコード)、「モーツァルト:ピアノと管弦楽のためのロンド 他」(ワーナーミュージック・ジャパン)をリリースしている。第13回新日鉄音楽賞、'04年アメリカ・ワシントン賞、第8回ホテルオーケストラ音楽賞、第17回出光音楽賞を受賞。

アマデウス・ソサイエティー管弦楽団 Amadeus Society Orchestra



1991年3月に慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラの卒業生を中心に“アマデウス・ソサイエティー室内管弦楽団”として設立。現在は当時の仲間に限らず多くの仲間を迎え、より活発な活動を行う。設立当初は室内管弦楽団として活動を行ってきたが、団体規模の拡張に伴って「室内」の2文字を取り除き、現在の「アマデウス・ソサイエティー管弦楽団」の名称となる。

- エル・システムとは -

世界中から注目され、すばらしい成果を上げている音楽による人材教育システム「エル・システム」。1975年に南米・ベネズエラで創設され、いまや世界20か国以上で取り上げられているこの壮大なプログラムは、教育の世界のみならず各方面から高く評価されるまでに至りました。

特に現在では、ロサンゼルス・フィルハーモニックの音楽監督を務めながら、ベルリン・フィルやウィーン・フィル、ミラノ・スカラ座など名だたるオーケストラや歌劇場に客演している指揮者、グスターボ・ドゥダメルをはじめ、17歳でオーケストラの頂点でもあるベルリン・フィルの正規団員になったエディクション・ルイスなど、エル・システムで音楽教育を受け、その後、世界の檯舞台に飛び立ち大活躍しているアーティストたちが続々と出てきています。

世界中の青少年たちが貧しくても音楽を演奏することを通じて、社会や隣人とのコミュニケーションや協調性など社会人として必要な力を学び、誇りと自信を持った人生を歩むことで、豊かで平和な世界を築くことができる、この教育理念に多くの人が共感しています。

株式会社白寿生科学研究所の健康の理念の一端を担うために建てられ、本年開館10周年を迎えるHakuju Hallでは、今回「エル・システム フェスティバル2013」の一環として、エル・システムで学び、国際コンクールを総なめにし世界中で大活躍のトランペット奏者、フランシスコ・フローレスと、先に述べたコントラバス奏者、エディクソン・ルイスを招き、それぞれのリサイタルと、公開レッスンを行ないます。

話題のアーティストたちの演奏と、エル・システムで育まれた彼らの人間性に触れることができる、またとない機会です。

主催：Hakuju Hall / 株式会社白寿生科学研究所

協力：一般社団法人エル・システム ジャパン/KAJIMOTO エル・システム室

後援：駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使館